

個性を生かした適切な教育実践が、 すべての人の人権を守ることにつながります。

子どもが持つ能力を生かし、
生きる力をはぐくむ特別支援
教育

平成20年度がスタートして
1ヶ月が過ぎました。初々し
い顔をしたたくさん的小朋友
徒が「夢」と「希望」を胸に
学校へ通っています。

さて、人権教育シリーズNo.
325号(平成19年5月広報)
で紹介しましたように、昨年
度から全国の学校で特別支援
教育がスタートしました。こ
れは、子どもたち一人ひとり
のよさを把握した適切な教育
を行うことにより、その子
が持つ能力を生かし、生涯を
通じて「生きる力」をはぐく
むことができるよう支援して
いくものです。

ある調査の結果では、学習
に非常な困難を感じている人
やじっとしているのが苦手な
人、物事にこだわりが強く、
人とつま／＼コミュニケーション
が取れないと感じている人
が統計学的に7パーセントい

ると言われています。

このように感じている児童
生徒に対する指導・支援とし
て、例えば、じっとしている
のが苦手な子どもには短時間
で違った学習や作業に変えた
り、前もってスケジュールを
視覚的に示しておくなどの手
だてをすることによって子ど
もたちが安心して学習に取り
組むことができます。このよ
うなその子の特性に応じた取
り組みは、全ての子どもたち
により分かりやすい学習を提
供することとなり、それぞれ
の能力を伸ばすことにつな
がります。

これまで、自分と考え方や
行動が違うから、自分より弱
い立場にあるからといって、
その人との間に壁を造り、そ
れが「いじめ」や様々な「差
別」を生み出してきた経緯が
あります。

その構造を打ち破り、他の
人のことをしっかりと理解で
きるようになることが重要な
のです。

豊かな人権教育をはぐくみ、
共に生きるために

一人ひとりちがった個性を
持った子どもたちが共に育つ
ていく教育をめざして、益城
町では本年度からいくつかの
小中学校に「特別支援教育支
援員」が配置されました。学
校での学習や生活の中で、子
どもたちどうしが相互に理解
し合い、共に育ち合う懸け橋
としての役割を「支援員」が
担っていきます。

支援員配置によって、日常
生活の中で人権上問題のある
ようなできごとに接した際に、
直感的にそのできごとはおか
しいと思う感性や、人権への
配慮がその態度や行動に現れ
る人権感覚が子どもたちに育
ち、差別のない学校、差別の
ない益城町を創っていくこと
になると期待しています。

益城町教育委員会

益城町の 地名源

歴史の変遷と地名

297

益城町には益城四山と呼ば
れる山があり、その一つ、朝
来山は城山の西隣に聳えて古
名を「朝来名峰(アサクナの
ミネ)」と呼ばれ、山自体が御
神体「神奈備(カソナヒ)」
とされ信仰される山で、益城
町では毎朝の太陽はこの山の
稜線から昇るとされます。以
下この山の古記録の要旨を紹
介します。

一、肥前風土記の「肥後国」
の条に朝来名峰を記し、肥後
風土記逸文には「肥後国號」
の条に「公望の私記に曰く崇
神天皇(第十代)の御代、肥
後国の益城郡朝来名峰に、土
蜘蛛打猿頸猴の二人あり衆徒
百八十余人を率い皇命を拒み
降伏せず。朝廷、肥の君の祖
健緒組に勅して之を伐たしむ。
健緒組勅を奉じて到り皆悉
く誅伐す。八代の郡の白髪山
に到りて止宿りき。虚空に火
あり。稍々に降下りてこの山
に着焼きぬ。天皇詔を下
して。火の国と名づくべし」と
肥後・火の国の語源を記述
しています。

二、肥後国誌は沼山津手永木
山郷福原村の条に「(補)朝
来名峰、福原村にアリ」と肥
後風土記朝来名峰の条を紹介

します。

三、新撰事蹟通考は「按二肥
後見聞雜記二益城郡福原村二
朝来名峰ト云アリ其山ノ奥二
石窟アリ。大石ヲ以テ四壁ト
シ長サ三四丈ノ石ニテ覆トス
窟中數十人ヲ入ベシ。恰モ石
城ノ如ク人巧ノ物ニ非ズ今人
跡到ルコト罕ナリ。里人鬼ノ
岩屋ト呼ブ。郡中外二朝来山
ト云山ナシ即于此也」と、今
も残る朝来山の「鬼の岩屋古
墳」を紹介しています。

四、肥後名勝略記に「釈日本
記に肥後風土記を引ききて、崇
神天皇の時益城郡朝来名峰に
。この峰何所に有ということ
未考之」と朝来山の所在
は不明とします。



役場庁舎より望む朝来山

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策